

⇒議員が市の行財政全般について執行状況や将来に対する考え方などを問い、適切に進んでいるかをチェックすることです。また、議員は政策提言等を行うこともできます。



えんどう ひであき
遠藤 英明 議員
(蒼天)

統一的な基準による地方公会計の整備促進について

問 統一基準による地方公会計に移行した背景とその効果について伺う。

部長 公会計の整備には複数の方式が併存していた。この是正と、ストック情報、コスト情報の可視化が可能となる効果が生ずる。

問 新公会計は現行の現金主義を補完し、資産・債務改革を生ずるが、この効果の目的は。

部長 長期的な視点から更新、長寿命化対策などを計画的に行うことで財政運営の効率化、適正化に役立つものとされている。

問 新公会計制度における発生主義は財政健全化判断基準の将来負担比率に取り入れられているが、将来負担やPFI事業等将来の動向について伺う。

部長 本市の将来負担比率は適正な数値を維持していて、他市と比較しても良好であるが、民間の資金、経営能力、技術等を活用して行うPFI事業等の予定はない。

問 資産老朽化比率の公共施設等マネジメントへの活用及び未収債権の徴収体制の強化にどのような方策を持って臨むのか。

部長 行政コスト計算書等による施設別のセグメント分析を行い、施設の維持保全を図りマネジメント整備、構築の在り方の検討を行う。

県道158号線、市道大塚弓沢線交差点（通称よろづや交差点）の改良工事について

問 令和元年12月の地元説明会の内容と今後の計画推進について伺う。

部長 関係者の協力の必要性和境界未確定の現地測量を再度実施したいことなどの説明を行った。今後は交差点改良については、市道の改良も必要となるため市としても県に協力していく。



つじむら たける
辻村 岳瑠 議員
(政経会)

市民の命を守る情報提供（同報無線）について

問 市民が自らの命を守る行動へ促すには、災害時の心理（正常性バイアス）に働きかける必要性がある。市の取り組みについて伺う。

部長 正常性バイアスとは、危険を危険でないと捉えてしまう心理。その対策として、令和元年の台風19号では市長自らが同報無線で呼びかけることで災害時の心理に働きかけた。

防災教育について

問 『率先避難者たれ』（釜石の奇跡）の防災教育を当市においても参考にできないか伺う。

教育長 現在市では、「自分の命は自分で守る」ことを原則とした防災教育を実施。K・Y・T※と呼ばれる危険予知・予測訓練では、自然災害だけでなく、子どもの身の回りで起こり得る様々な危険に対する状況に応じた行動の取り方を学んでい

る。学校安全計画に従って学べる取組を各校で作成している。

情報弱者への防災情報提供について

問 LINE（ライン）などのSNSを導入し動画配信できる仕組みを提案する。このことは手話で情報を伝える事にもつながるが市の考えを伺う。

部長 聴覚障がい者の方には、現在はメールサービスという対応を行っている。LINEでの情報提供は、お友だち登録していただいて、皆さんの中で情報共有していただけるのは非常に有効な方法だと思う。しかし、市としてはIDの問題や個人情報等もあるため、十分調査をして少しずつ取り入れていきたいと考えている。

情報提供の要望

要望 防災システムを研究している方の著書には「情報伝達の方法で人の行動は変えられる」と主張されている。市民の命を守る行動に促す情報発信をお願いしたい。

※K・Y・Tとは、危険予知トレーニングのこと。